

# 2023年度 自己評価結果

関東学院六浦こども園

## 1. 関東学院六浦こども園の教育と保育

### ◎ 教育・保育理念

神さまに創られた大切な一人として愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養います。

### ◎ 教育・保育目標

・主体性 ・思いやりの心 ・創造性

### ◎ 教育・保育方針

- ・キリスト教の精神、即ち学校の校訓である「人になれ奉仕せよ」の精神をもって、毎日の保育をしていきます。
- ・食事、睡眠、排泄、清潔などの基本的な生活を大切に、一人ひとりに丁寧にかかわり、ありのままの姿を受けとめる中で基本的信頼感を育みます。
- ・喜怒哀楽をしっかり経験する中で自分の思いを表し、他者の思いに気づきながら自分づくりを積み重ねていけるよう子どもの心に寄り添った援助をしていきます。
- ・子どもたちの好奇心や興味をかきたて、生活や遊びが豊かに広がり学びが深まるような環境構成や援助のあり方に配慮し、異年齢のかかわりを積極的に行います。

## 2. 本年度の重点事業目標及び計画

### (ア) 園内外で研究、研修を行い、保育の質の向上につなげる

学びや意欲につながる遊び（自ら創り出すもの）と豊かな探索や体験、充実した活動を提供していく事と異年齢の関わりを重視した柔軟な取り組みなどで選ばれるこども園になるために本園ならではの新しいユニークな教育保育を構築していきます。

外部講師による園内研修会を定期的に行い、保育実践を持ち寄り子ども理解が深まる話し合いや学びの機会を保障し、保育教諭の共通理解や連携を基に保育が展開していけるように、園内研修ではテーマ性のある内容で学んでいきます。また、外部の研修・研究会はリモートなども活用して保育教諭に積極的な参加を促します。そして異年齢保育や環境による教育・保育に先駆的に取り組んでいる園の見学研修を実施します。

保育教諭が主体的に研修や研究に取り組み、園、或いは個人で保育学会や幼児教育実践学会等でも研究発表を行っていきます。

### (イ) 自然、木育を取り込んだ保育、教育の推進

引き続き保育教諭に、保育ナチュラリストや木育インストラクターの資格の取得やフォローアップ講座等への参加を促します。自然教育・保育に関する知識や技量を増やし実際の園生活に豊かに活かしていきます。保護者にも自然、木育を体験してもらおう機会を作り、その重要性を感じていただきます。

2019年9月に認可された『ウッドスタート宣言園』を維持し様々な生き物や植物などに触れる場を室内・外に充実していき、園生活により豊かな自然、木育を実現していきます。子どもたちが身近な自然に興味関心を抱き、それを探求していくことで培われる感性や探究心、創造力などの非認知能力を伸ばします。そして、専門家を招いて子どもたちと身近な自然を探究する活動を行い、自然を大切に思う心を育てます。

### (ウ) 主体性や意欲、創造性を育む園庭、室内環境の充実

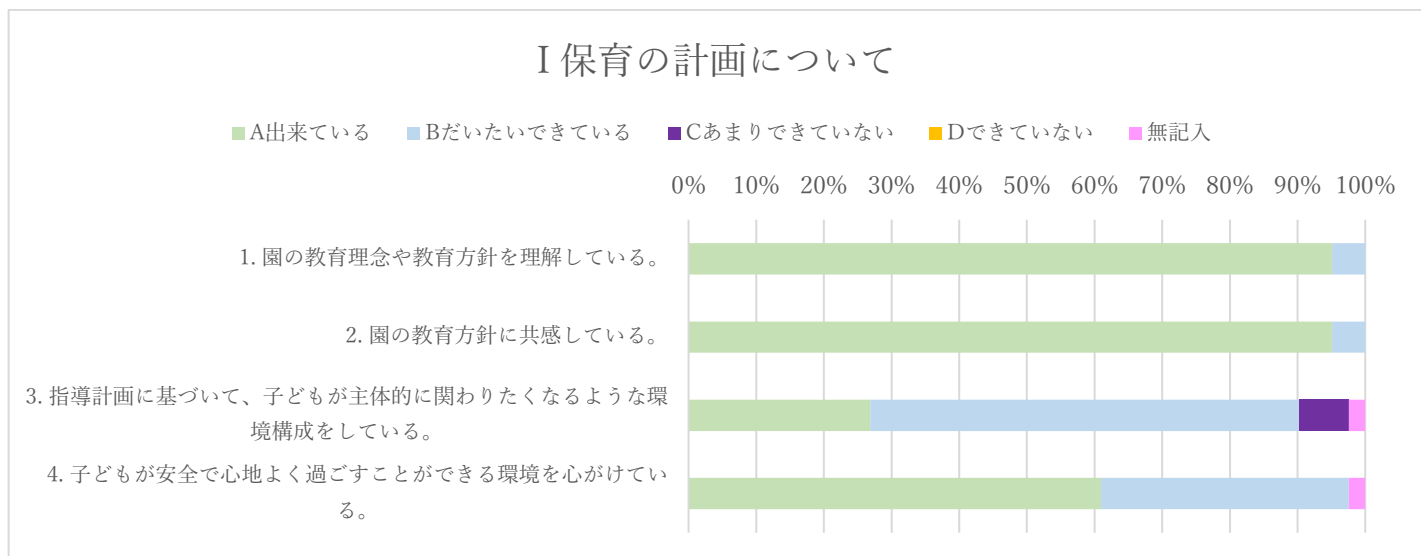
今ある園庭・室内環境をより子どもたちの主体性や創造性が発揮できる環境に進化させ充実させていく為に、子どもたちが遊びや活動に取り組む姿から検証をしていきます。そして、子どもたちの興味関心や意欲が引き出され夢中になって取り組み、試行錯誤ができるような園庭・室内環境について話し合い（お父さんの会も含め）を重ねていきます。

また、お父さんの会の活動は保育教諭と保護者が子どもの育ちや環境を共に考え合う機会として、年間を通してワークショップや講演会などを企画し実施します。今年度は新たな水場の増設や滑車遊具などの設置、また劣化してきた遊具（檜や木工小屋など）の建て替えなどを行います。先駆的な環境づくり実践園の見学研修は、リモートも活用して行います。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

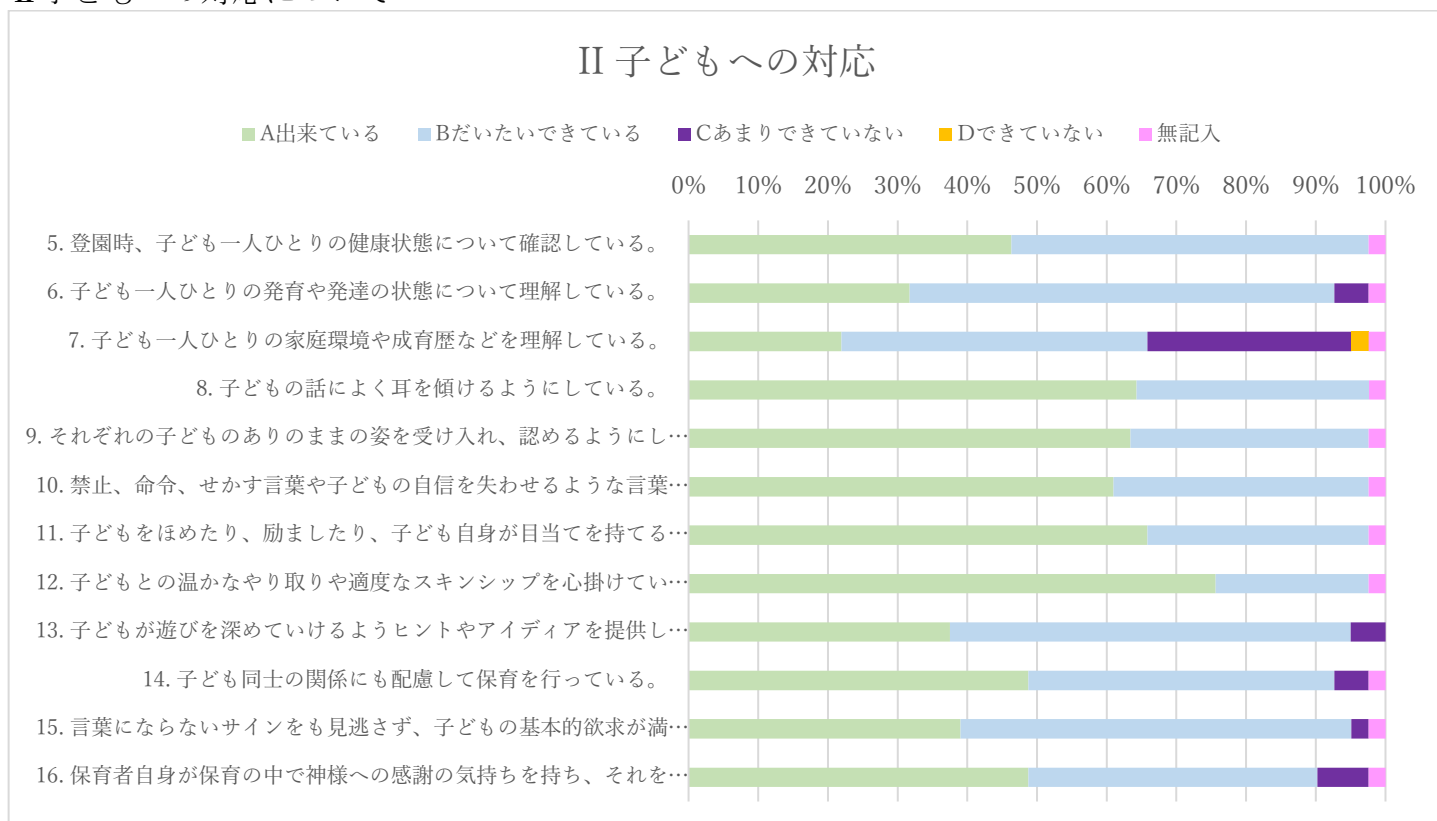
下記の項目について、教職員にアンケート調査を実施し、その結果を表にまとめ自己評価としました。また、その結果をもとに、園運営や教育活動の総括と来年度の改善に向けての課題等をまとめました。

#### I 保育の計画について



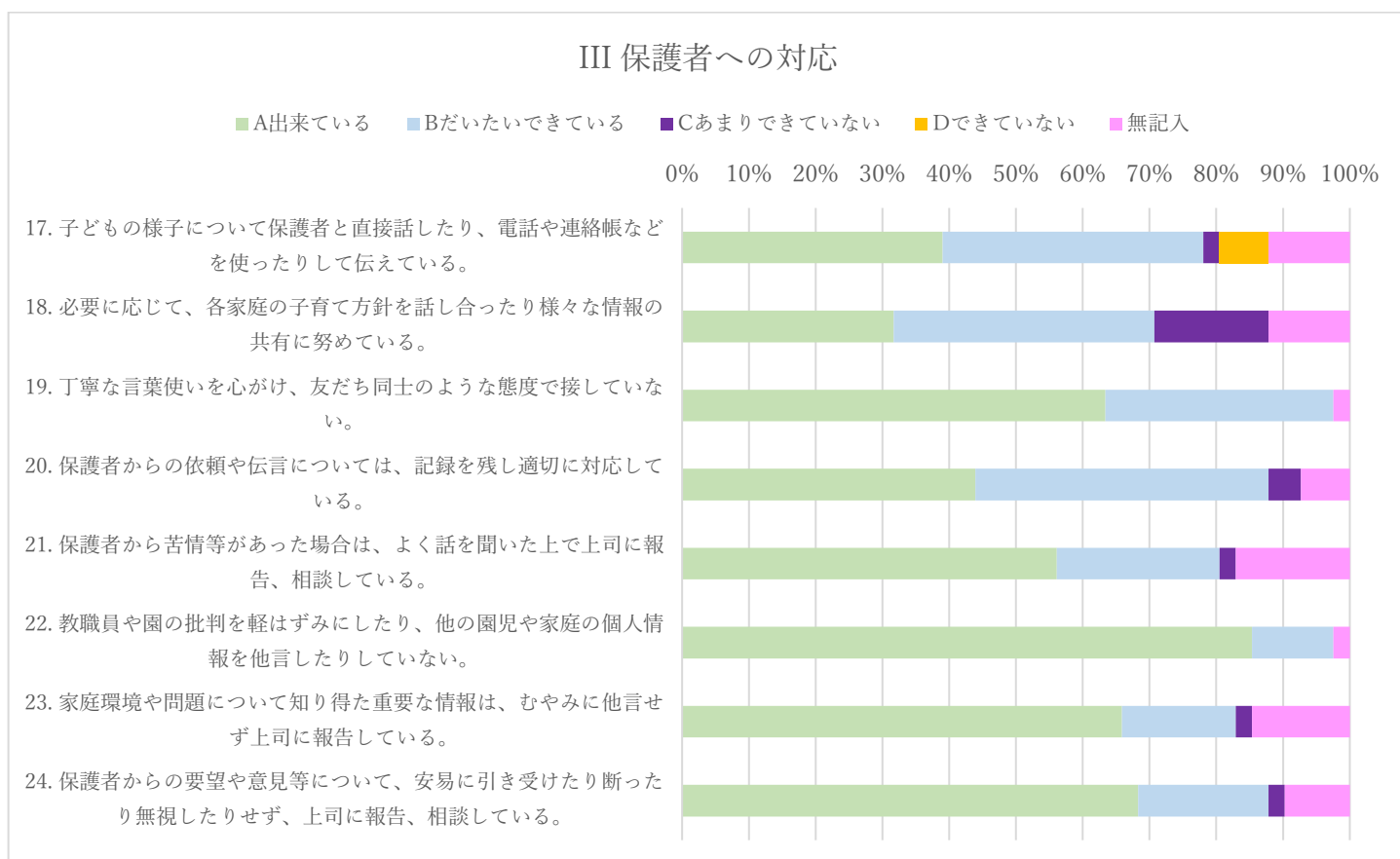
1	園の教育理念や教育方針を理解している。	A
2	園の教育方針に共感している。	A
3	指導計画に基づいて、子どもが主体的に関わりたくなるような環境構成をしている。	B
4	子どもが安全で心地よく過ごすことができる環境を心がけている。	A

#### II 子どもへの対応について



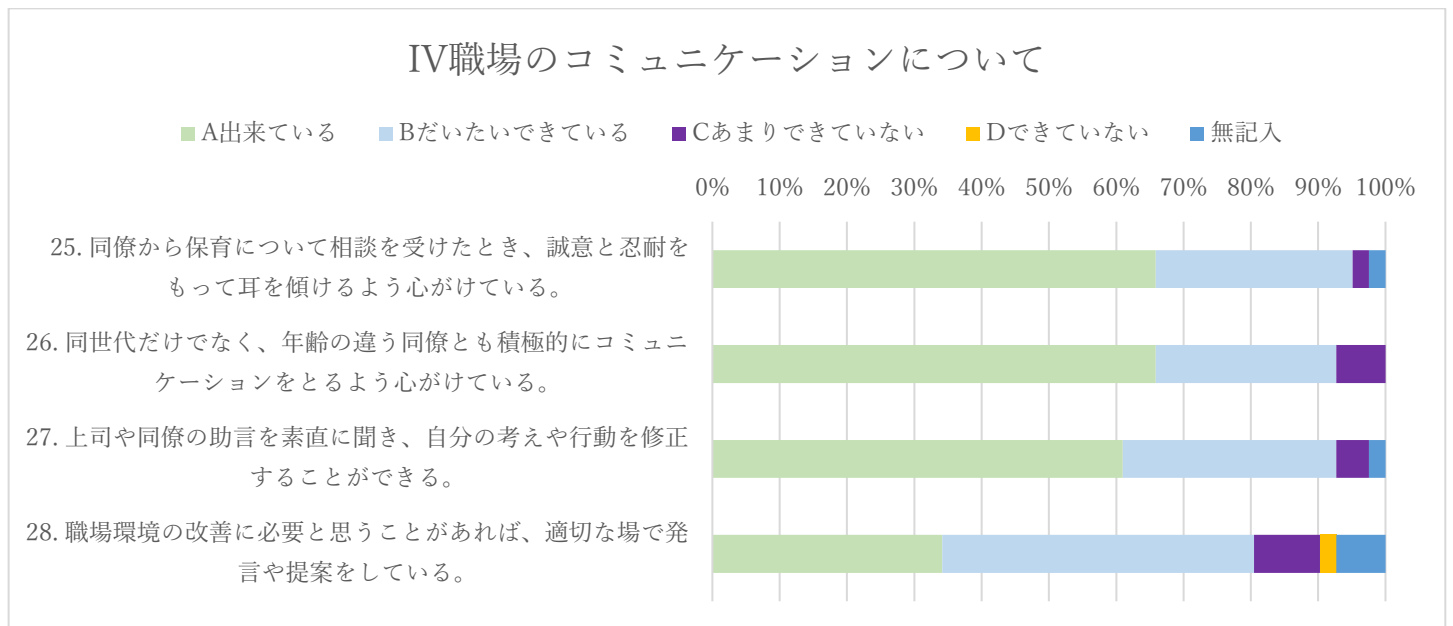
5	登園時、子ども一人ひとりの健康状態について確認している。	B
6	子ども一人ひとりの発育や発達の状態について理解している。	B
7	子ども一人ひとりの家庭環境や成育歴などを理解している。	B
8	子どもの話によく耳を傾けるようにしている。	A
9	それぞれの子どものありのままの姿を受け入れ、認めるようにしている。	A
10	禁止、命令、せかす言葉や子どもの自信を失わせるような言葉や態度にならないように心掛けている。	A
11	子どもをほめたり、励ましたり、子ども自身が目当てを持てるような言葉掛けを心掛けている。	A
12	子どもとの温かなやり取りや適度なスキンシップを心掛けている。	A
13	子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイデアを提供している。	B
14	子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。	A
15	言葉にならないサインをも見逃さず、子どもの基本的欲求が満たされるようにできる限り配慮している。	B
16	保育者自身が保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それをことばや態度で表現するよう心掛けている。	A

### Ⅲ保護者への対応について



17	子どもの様子について保護者と直接話したり、電話や連絡帳などを使ったりして伝えている。	AB
18	必要に応じて、各家庭の子育て方針を話し合ったり様々な情報の共有に努めている。	B
19	丁寧な言葉使いを心がけ、友だち同士のような態度で接していない。	A
20	保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している。	AB
21	保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いた上で上司に報告、相談している。	A
22	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、他の園児や家庭の個人情報を他言したりしていない。	A
23	家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず上司に報告している。	A
24	保護者からの要望や意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談している。	A

#### IV職場のコミュニケーションについて



25	同僚から保育について相談を受けたとき、誠意と忍耐をもって耳を傾けるよう心がけている。	A
26	同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的にコミュニケーションをとるよう心がけている。	A
27	上司や同僚の助言を素直に聞き、自分の考えや行動を修正することができる。	A
28	職場環境の改善に必要と思うことがあれば、適切な場で発言や提案をしている。	B

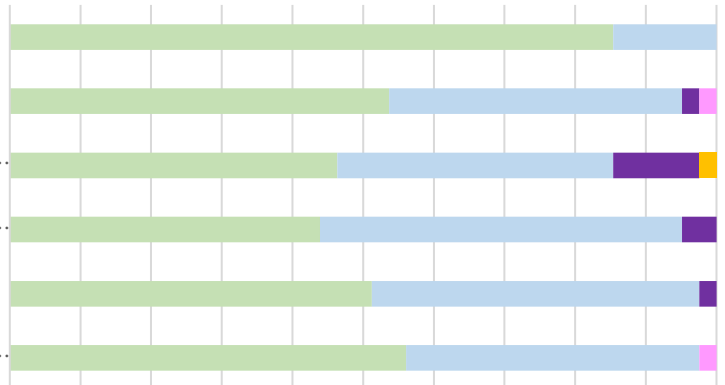
## V 資質向上について

### V資質向上について

■ A出来ている ■ Bだいたいできている ■ Cあまりできていない ■ Dできていない ■ 無記入

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

29. 保育者の人間性が子どもに影響を与えることを自覚している。
30. 園内の遊具や教材の使用法や危険性について理解している。
31. 常に保育者としての専門知識や技能をさらに向上させるよう努...
32. 子どもや保育、教育に関する情報を日ごろから得ようと努力し...
33. 職場では正しい日本語、丁寧な言葉遣いを心がけている。
34. 服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安...



29	保育者の人間性が子どもに影響を与えることを自覚している。	A
30	園内の遊具や教材の使用法や危険性について理解している。	A
31	常に保育者としての専門知識や技能をさらに向上させるよう努めている。	A
32	子どもや保育、教育に関する情報を日ごろから得ようと努力している。	B
33	職場では正しい日本語、丁寧な言葉遣いを心がけている。	A
34	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている。	A

## ◎ 評価項目の達成状況と今後の課題

### I 保育の計画について

達成している。

教育理念や教育方針について教職員間の共通理解はでき、安心安全で子ども主体の保育を実践している。

課題

子どもたちの姿から適切な（必要な）環境を教職員で随時検討し、実現していく。

### II 子どもへの対応について

概ね、達成している。

キリスト教保育を実践し、子どものありのままの姿を受け入れ尊重していく保育を実践している。

子どもの声を聴き、禁止用語や否定をしない保育を展開していく。

課題

一人ひとりの発育や発達の理解を深め、子どもの背後にある家庭環境に配慮した関わりをしていく。

### III 保護者への対応について

概ね、達成している。

保護者の話をよく聞き、対応の難しい事柄は教務に報告し、相談した上で対応している。

課題

これからも保護者と対面で対応する事や適切な対応が出来るように、教職員間で密に連携を取っていく。

### IV 職場のコミュニケーションについて

達成している。

積極的にコミュニケーションを取り、助言を素直に聞き入れ、修正する事ができる。

課題

さらに発言や提案がしやすくなるよう努力していく。

## V 資質向上について

達成している。

子どもたちにとって環境の一部であることを自覚して、言動や身だしなみなどを整えている。

### 課題

今後も、専門知識や技能を向上させ、教育・保育情報の取得に努めていく。

## 4. 本年度の重点事業の評価

### ① 園内外で研究、研修を行い、保育の質の向上につなげる

○継続して行っている外部講師との園内研修を乳児・幼児クラス共に定期的に行い、保育の学びを深める事ができました。テーマに基づいて講師と共に自分の保育を考察する中で、気づきや視点をもらい子ども理解が深まり、また、学びを実践に活かしそれを理論に結び付ける事を繰り返し行う事で深い学びにつながっています。先生たちが自分の言葉で保育を語ることを積極的に行うようになりました。

○保育学会は Zoom で行われ幼児教育実践学会などは対面形式で開催されました。幼児教育実践学会で本園は2つのポスター発表を行いました。発表内容は、子ども理解や保育教諭の在り様をテーマにしたものでした。当日、多くの方と出会い語り合うことができました。

○園内でサロンやひろばという名称で、地域の子育て中の方を招いて行う子育て支援を始めました。また、地域のケアプラザや地区センターなどに出向いて行って、園で実践しているアート活動などを行い、0～2歳児のいる親子の方たちに体験してもらいました。本園を紹介する活動となっています。

○他園に見学に行き、子どもたちの姿や保育をしている先生たちの話を伺うことができました。本園で活かせることを検討し、柔軟なクラス運営につなげていきます。

### ② 自然、木育を取り込んだ教育の推進

○室内に自然物を飾り、子どもたちが園庭や家庭から連れてくる生き物を飼育するコーナーで、興味関心を抱いた子どもたちがじっくりと触れ合う事や調べる事ができる場を設定しています。生き物を世話する体験を通して、愛着を感じ世話の難しさも体験する事ができました。子どもたちの身近に自然が豊かにあることで子どもたちがいのちについて考え、大切にしようとする関わり方を学ぶよい機会になっています。子どもたちが五感を使って感じることや図鑑や絵本などの知識を得ることでより探求心や想像力が豊かになりました。

園庭や散歩に行った先で出会った生き物と触れ合う事でいのちの不思議さや生態を知り、自分たちも神さまに守られ愛されていることを体感していました。

○木育活動として、丸太を園庭に運び込んで子どもたちが木くずに触れたり嗅いだり、手で樹皮を剥いたり大きなのぎりを2人で使って協同作業で切ったりしました。乳児クラスから年長クラスの子どもたちがそれぞれの力を発揮する機会となりました。

○先生たちが保育ナチュラリストや木育インストラクターの資格を持ち自然教育・保育に関する知識や技術を活かして子どもたちとの遊びや生活、保護者とのコミュニケーションツールに用いる事ができました。また、自然物（木の枝や実、花や葉、石など）を教材として用い、外アトリエなど戸外での表現活動がより豊かで面白いものになりました。

### ③ 主体性と創造性が育まれる園庭と室内環境の構築

○園庭の手作り遊具の経年劣化や子どもたちの興味関心、身体能力の向上を考慮し、先生たちと今ある園庭環境の検討を行い、新たな園庭環境を模索し改造していく事にしました。そこで古くなったやぐら(1体)と木工小屋を老朽化により撤去しました。また、中央の山を小さく削り、砂場の移動も行いました。来年度に亘り、園庭改造を行いより良い環境を構築していこうと考えています。子どもたちが自ら関わりその手応えを感じていける今の環境の良さを活かして変化させていきます。

○室内環境は保育室の中に子どもたちの表現したものを飾れる場所を設け、ギャラリーのように展示できるようにしました。また、子どもたちの興味関心のあることを探求していけるような環境を整え、各保育室の前の協働スペースは子どもたちがその時に必要としている環境に造り変えていきました。それによって子どもたちの活動の幅が広がり主体性や創造性がより豊かに発揮できました。

## 5. 本年度 研究・実践発表

- ・ 幼児教育実践学会でのポスター発表（2グループが発表）
- ・ 月刊誌「保育とカリキュラム」に掲載（本園の保育実践）
- ・ 学研「ほいくあっぷ」（季刊誌）に掲載（本園の保育実践）
- ・ 世界文化社「PriPri パレット」インクルーシブ保育に掲載（本園の保育実践）
- ・ 横浜市幼保小接続期研修 公開保育会場園となる（Zoomと対面のハイブリットで行う）
- ・ キリスト教保育誌 執筆者